

初演 有馬龍子記念 京都バレエ団公演
日本 幻のバレエ「LE REVE 夢」を復元

19世紀後半、パリ万博をきっかけにジャポネズリ(日本趣味)が西欧で大流行していたことはご存じだろう。ゴッホやモネなどが浮世絵に影響を受けたことは有名だが、実はバレエ作品にも日本文化に影響を受けたものがあった。

それは、1890年にパリ・オペラ座で上演された「ル・レーヴ(二回)



「夢」のポスター(テオフィル・アレクサンドル・スタンラン画/フランス/1890年)所蔵:兵庫県立芸術文化センター 薄井憲二バレエ・コレクシオン



パリ・オペラ座から指導に訪れたエリック・カミーヨ(右)とフアン・ガイダ(左)



4月下旬、京都・北白川の京都バレエ団でのリハーサル風景

「記譜」『夢』。着物風の衣裳のヒロイン・ダイタや武士風の領主サクマ、扇が開閉する舞台装置などが大きな話題になったように、ミュシャの版画でダイタを描いたものも残されている。

昨年末に亡くなった薄井憲二のコレクシオンには、その版画や上演時のポスターもある。二年前に京都バレエ団公演の振

付をパリ・オペラ座の重鎮振付家フアブリス・ブルジョワが手掛けた折、薄井は彼に復元を切望。ブルジョワはその後、オペラ座の資料館で資料入手。難解なノーテーション(記譜)を起し、残された楽譜からミッシェル・ディエトランに全曲を起す依頼をし、振付に取り組んでいる。

4月下旬、彼の振付を移すため、フアン・ガイダとエリック・カミーヨが来日。聞くと「フアブリスは」19世紀にどうだったかということだけでなく、21世紀の観客が観て楽しめる作品を創り上げたいと思っている。私たちも、このバレエがどんな風に視覚化するのか、とても楽しみ」と語った。

2時間ほどの作品を、今回は睡りを中心とした45分ほどに短縮して上演。主役ダイタ&タイコをオニール八菜&カール・パケットが踊る。

7月27日(金)18時半、ロームシアター京都メインホール。10000円〜20000円(当日は5000円UP)。TEL075・701・6026

(松あつこ)